

# ネットワーク通信

No34  
2020.3.5



## 山梨県障害者差別解消支援ネットワーク会議

### 【トピック】

- ▶ 令和元年度 第2回ネットワーク会議を開催しました。  
ネットワーク会議における事例提供、各委員の意見等の報告をします。

事務局：山梨県障害福祉課  
〒400-8501  
山梨県甲府市丸の内1-6-1  
Tel 055-223-1362 又は 1460  
Fax 055-223-1464  
E-mail shogai-fks@pref.yamanashi.lg.jp

### 令和元年度第2回山梨県障害者差別解消支援ネットワーク会議開催

令和2年1月30日に令和元年度第2回山梨県障害者差別解消支援ネットワーク会議を山梨県防災新館401会議室で開催しました。会議は山梨県福祉保健部小島部長から委員に対する謝意及び同ネットワーク会議の取り組みに対する期待が挨拶で述べられました。議事は、事業者による事例報告、事務局から取り組み状況の報告を行いました。事例報告は次の2例をお願いしました。

- ①「温泉施設における合理的配慮の提供について」 株式会社 燈屋 社長 氏原 敦 様
- ②「障害者福祉に関する地域情報の発信について」 アンリヴ株式会社 代表取締役 堀内 麻実 様

## 事例1 「温泉施設における合理的配慮の提供について」 株式会社燈屋 社長 氏原 敦 様



【株式会社燈屋社長 氏原 敦 様】

### 事案の概要

令和元年7月の三連休の最終日にご夫婦で来館され、奥様が車いす、歩行するときに杖を使用されるお客様でした。温泉施設を利用したいとの話がありましたが、受付のスタッフが「杖をついての入浴は危険ですので、同性の方とご一緒に御利用いただけないか」とお話ししました。安全のためをお願いしたところですが、お客様からは説明に納得が得られないままお帰りになり、その後、お客様からSNSに非難の記事が上げられ、事業所はその対応に追われました。お客様と直接お会いして説明や話し合いなどを通して相互理解に至りました。事業所内でも検討に加え、県や甲府市の関係機関との協議等を通じて、温泉施設における「合理的配慮の提供」となるよう取り組んでいます。

### 対応経過

- ①お客様ご本人への対応
  - ・電話で、対応についてお詫びしました。
  - ・直接お会いして、お客様のご意見を聞き、会社としての説明・対応を伝えました。
  - ・障害者だからお断りしたのではなく、説明が足りず誤解を与えてしまった点に理解を求めました。
  - ・話し合いを通じて相互理解を得ることができました。
  - ・お客様は、話し合い後、SNSに経過と自分の誤解であったことを記載しました。お客様はその後も継続して利用されています。
- ②関係機関への相談
  - 公衆浴場として基本的に求められる安全・安心の在り方等について、山梨県、甲府市の関係機関担当者と意見交換を行いました。

### 事業所内での取り組み

- ①「安全」についての「基本方針」及び、「法律」や正しい考え方を共有する。  
お客さんへの対応で誤解を与えてしまったことについて、社内での研修、情報共有を行った。
- ②浴場専用杖を無料で貸し出し開始し、高齢者を含めてお客様へ積極的な提案を行うこととした。
- ③県政出張講座を利用して、社員研修を実施した。  
職員から「誇りをもって働いていける。」というメッセージを受けた。今後も継続して実施をしたいと考えている。

### 今後の課題等

- ①『合理的配慮』⇔「みんなに使って頂きたい」⇔「みんなの安全」  
公衆浴場としての責務は、「公衆衛生、みんなの安全を確保する。」この責務を果たすことも、合理的配慮だというふうに解釈している。
- ②情報発信 について、  
HP等で弊社の姿勢を正確に発信する、温浴業界としての考え方を発信していきたい。業界の仲間にも問題提起している。
- ③心のバリアフリーの推進  
思いやり溢れる施設、人間としての取り組みを進めていくことは、心のバリアフリーの推進に努めていくことであると考えている。

## 質問

山梨県聴覚障害者協会 仁科委員

燈屋さんには聴覚に障害がある方とコミュニケーションができるように手話ができる方がいるのか。  
筆談で対応できるようにコミュニケーションボードがあるなどの配慮があるのか。  
施設内のテレビは字幕付きで放送されているかどうか。

## 意見

山梨県視覚障がい者福祉協会 堀口委員

障害者にも高齢の方にとっても良い対応がされたと感じた。  
視覚障害者にとって公衆浴場は非常に困る場所です。場所や建物の配置などの情報、説明があると助かります。大雑把な配置の説明がありがたい。  
公衆浴場のシャンプーの容器が家庭用のものと同じようにリンスと分別できるようになることを望みます。

山梨県身体障害者福祉連合会 馬場委員

身体障害者に対しても高齢の方にとってもありがたい取り組みをしていただいた。  
温泉は癒される場所なので障害のある方も楽しみにしている場所です。これからも障害のある方たちの利用のために協力していただきたい。

## 回答 氏原様

貴重な意見ありがとうございました。施設をいろんな方に使っていただきたいという考え方のもとに対応を考えていきたい。今のところ設備上問題があるため付添者をお願いしている。混んでいない場合はスタッフの案内も不可能ではないので考えながらやっていきたい。聴覚障害者へのコミュニケーション上の対応の準備は今のところはできていない。テレビはスイッチの切り替えでできるが、そのほかの準備はすぐにも取り組みたい。シャンプーの容器については、業者さんに相談してお願いしているところ。

# 事例2 「障害者福祉に関する地域情報の発信について」

## アンリヴ株式会社 代表取締役 堀内 麻実 様



【アンリヴ株式会社 堀内 麻実 様】

### 経緯

- ・キャリアを持つ女性が結婚や出産を機に、社会で我慢することの多さに疑問を持ったことがきっかけとなり、子どものいる女性でも働きやすい環境を整えた女性だけのデザイン編集会社を設立した。
- ・会社設立から1年後、フリーマガジン「anko(あんこ)」を創刊した。  
多様にある地域の暮らしを、育児や子育て、親の介護をしている 30～50歳前半の女性を主なターゲットとして、年に2回(4月・11月)の発行を目標に発信をスタートした。
- ・「年齢、性別、障害の有無を越えて過ごす日常が、当たり前存在するために」と「ノーマライゼーション」「共生社会の実現」とは同じという考え方で活動している。

### 取組

#### 「anko(あんこ)」とは

「福祉の視点から

山梨を伝えるフリーマガジン」

- ・ユニバーサルデザインを取入れた地域情報を発信する
- ・障害者福祉に関わる情報を発信する
- ・環境に関わる情報を発信する



【フリーマガジン anko】

#### 「anko(あんこ)」の目指すところ

多様にある暮らし方を知るきっかけになる＝「共生社会」の実現

- ・障害者や福祉に携わる人たちだけの情報共有ではなく地域全体における情報発信・情報共有を強化する
- ・「福祉×デザイン」の新たな可能性を追究する
- ・いわゆる健常者の「福祉」認知の向上を目指す
- ・障害者若年層の社会との交流のきっかけにする

#### 「anko(あんこ)」が大事にしていること

ユニバーサルデザインを取り入れた誌面づくりをする

- ・ターゲット層に届く誌面構成と配布場所の徹底を図る
- ・環境を配慮した紙媒体であることに努める
- ・障害者参加型ページを確保する
- ・読者が今ある暮らしに取り入れやすい特集を企画する

#### 「anko(あんこ)」取材時の地域の反応

##### ・「車いすで山梨を巡る！」車椅子障害者参加型ページ

モデルが今まで行きたかったけれど、行かなかった山梨のスポットと一緒に巡ることで、当人の自信につながるだけではなく、取材先の意識が大きく変わったことを実感。反響が大きい。

＝施設のユニバーサルデザイン(バリアフリー)の点検に繋がる

##### ・メイン特集「素直に生きるってなんだか面白い」

地域でスポットを浴びることが極端に少なかったと話す取材者たちの自信に繋がったと同時に、同じ視点で活動する他者を知るきっかけとなり新たな可能性を感じた人もいた。

##### ・「osaji で ankoを食べる日」

anko初のイベントでは、高齢者・障害者・妊婦など多様な人々が参加し交流できた。ごちゃまぜイベントとして企画していきたい。

#### 誌面の企画・計画

- ・H31に創刊し、年2回の発行を予定している。これまで2号発行。
- ・「障害福祉に携わる20～40歳のこれまでとこれから」「年齢や立場の違う人々の地域の暮らし」「ごちゃまぜスポーツの特集」など

### 課題

- ①県内における福祉情報の発信の充実 … まだまだ認知されていないことを感じている。広く発信していく必要を感じている。
- ②イベントなどを通じたネットワークづくり … 障害のある人もない人も本当に地域でみんなが楽しめるイベントを企画していきたい。
- ③「福祉×デザイン」の可能性の認知 … 障害者イベントの告知だからこれくらいのデザインで大丈夫、障害者の作った商品だからこれくらいで大丈夫というような面にデザインの力を取り入れることで新しい発信方法が増える。  
未来の子供たちのために少しでも豊かな山梨になって欲しいという思いでこれからも活動していきたい。

### 意見

#### 山梨県身体障害者連合福祉会 馬場委員

ankoの編集はどちらで行っているのですか。1号と2号では事務所の連絡先が異なっているので確かめたいと思います。

#### 回答 堀内様

当初南アルプス市の自宅でしたが、反響が大きく、対応が増え、現在は甲府の朗月堂書店裏テナントに事務所があります。

#### 意見

##### 小畑会長

ankoというフリーペーパーをはじめて知りました。いい取り組みをされています。学生に広めたいと感じました。

### 委員からの情報提供・意見

#### 山梨県聴覚障害者協会 仁科委員

県の新型コロナウイルスの相談窓口の連絡先が電話しかのっていない。  
⇒会議終了後にFAX番号表示の対応を依頼しました。

#### 山梨県精神障害者家族会 時田委員

県の障害者文化芸術活動推進事業「呼吸をするように生まれた者たち3」(1/31終了 韮崎市)は、展示が素晴らしかった。自分の地域でも取り組みたいと思っている。観覧してほしい。

#### 山梨県手をつなぐ育成会 越水委員

相模原市で発生した知的障害者施設での殺傷事件について、被害者匿名での裁判が行われている。被告が話している、日常生活を守るためや社会貢献ができない人を殺傷したことなどは、同じ知的障害の親として複雑な思いを持っている。

人間を生産性や能力で判断するという社会に憂慮している。漠然とした思いで現実的にこうだとは言えないが、差別解消に関わり、改めて自分自身の中にある差別意識を問いなおす必要があるのではないかと考えている。

編集後記：本年度の2回目の障害者差別解消支援ネットワーク会議を開催し、好事例の共有を図りました。市町村広報誌等による障害者差別解消・障害の理解・障害者週間等に関連する記載は、少しずつ増え、県内の市町村の8割ほどで取り込まれるようになってきました。それでも差別に関わる相談や事案はまだ生じています。障害者差別解消法がスタートして、4年が過ぎようとしています。地道に周知・啓発等の取り組みを継続していかなければという思いを強くしています。皆さんとともに障害者差別解消、心のバリアフリーの推進、共生社会の実現に向けた取組を着実に進めていきたいと思います。(障害者差別解消推進員 久保)